

英国の推理小説 Whodunit?

英国を象徴する人物の一人、パイプ・タバコをくぐらせる伝説の名探偵『シャーロック・ホームズ』が、現在、世界中の映画館で上映されています。最新作では、ロバート・ダウニー・Jr が、コナン・ドイルの 211 作品中、75 人目の俳優としてホームズを演じています。これらの数字は、ベストセラー作家であるアガサ・クリスティーのベストセラーの小説数や彼女の書き下ろしの推理劇『The Mousetrap (ねずみとり)』のロングランと同様に世界的な記録で、英国が世界の**推理小説 (whodunit)** に大きく貢献していることは、明らかです。

英国人は、なぜ、こんなにも推理小説が好きかというと・・・。

難題続きの内容は疑いもなく、遊び心にあふれた英国人にとって大きな魅力です。古典的な**推理小説 (whodunit)** は複雑に構成され、筋書きは、**おとり(red herrings)** も含めた様々な手がかりが張り巡らされ、驚きの結末と予想外の**展開(twist)** がつきものとされています。

また、豪華な貴族のタウンハウスや美しいカントリーサイドの村といった古典的な舞台設定にもあるでしょう。推理小説を通して、庶民は上流社会の人々の暮らしぶりを知ることができたのです。特に映画化された作品では劇的な事件が扱われました。

もちろん、天賦の才のある素人という典型的な英国のヒーローが、上流社会の悪の正体を暴露することへの満足感もあるかもしれません。

英文学における探偵ストーリーの始まりは、興味深いことに、事実とフィクションの不思議な融合でした。

名探偵の原型は、スコットランドヤードのウィッチャー警部。彼が捜査した国民注目の事件については『The Suspicions of Mr. Whicher: or the Murder at Road Hill House』をどうぞ。

エジンバラの外科医ベルをモデルとしたホームズは、皆の想像力をあまりにも引き付けたので、実在の人物と信じて助けを求める手紙が送られました。コナン・ドイル自身も、実際に 2 つの事件に巻き込まれ、誤って有罪判決を受けた若い弁護士の名を晴らしています。

アガサ・クリスティーも、1926 年に 11 日間の失踪の後に、別人名義で宿泊していた保養地ハロゲイトのホテルで発見されたという謎を残しながら優れた仕事をしました。

最近のテレビの時代では、英国中の様々な都市、オックスフォードではモース、グラスゴーではタガート、エジンバラではリーバス、スコットランド・ハイランド地方ではマクベスというように地域毎に黒幕を捕まえる探偵が誕生しました。シャーロック・ホームズ同様に、これらの番組は、素晴らしいロケ地を使っているため、多くの観光客がヒーロー達の足跡をたどろうとそれぞれの場所へ押し寄せています。

発見に興味がある方は、ベーカー街 221Bにあるシャーロック・ホームズ・ミュージアム(Link to <http://www.sherlock-holmes.co.uk/>)へどうぞ。

アガサ・クリスティー・ファンは最近一般公開された自宅 (Link to <http://nationaltrust.org.uk/main/w-vh/w-visits/w-findaplace/w-greenway/>) は如何でしょうか。

モース・マニアは美しいオックスフォードでヒーロー行きつけの場所を、マクベスのファンはスコットランド・ハイランド地方の Plockton を目指してみてもいいですか？

シャーロック・ホームズの最新映画を楽しんでみてもいいですね。ちなみに続編はブラット・ピットを迎えるという構想が進行中のようです。英国の偉大な探偵ホームズはもう暫くは私たちの前から立ち去ることはできないでしょう。